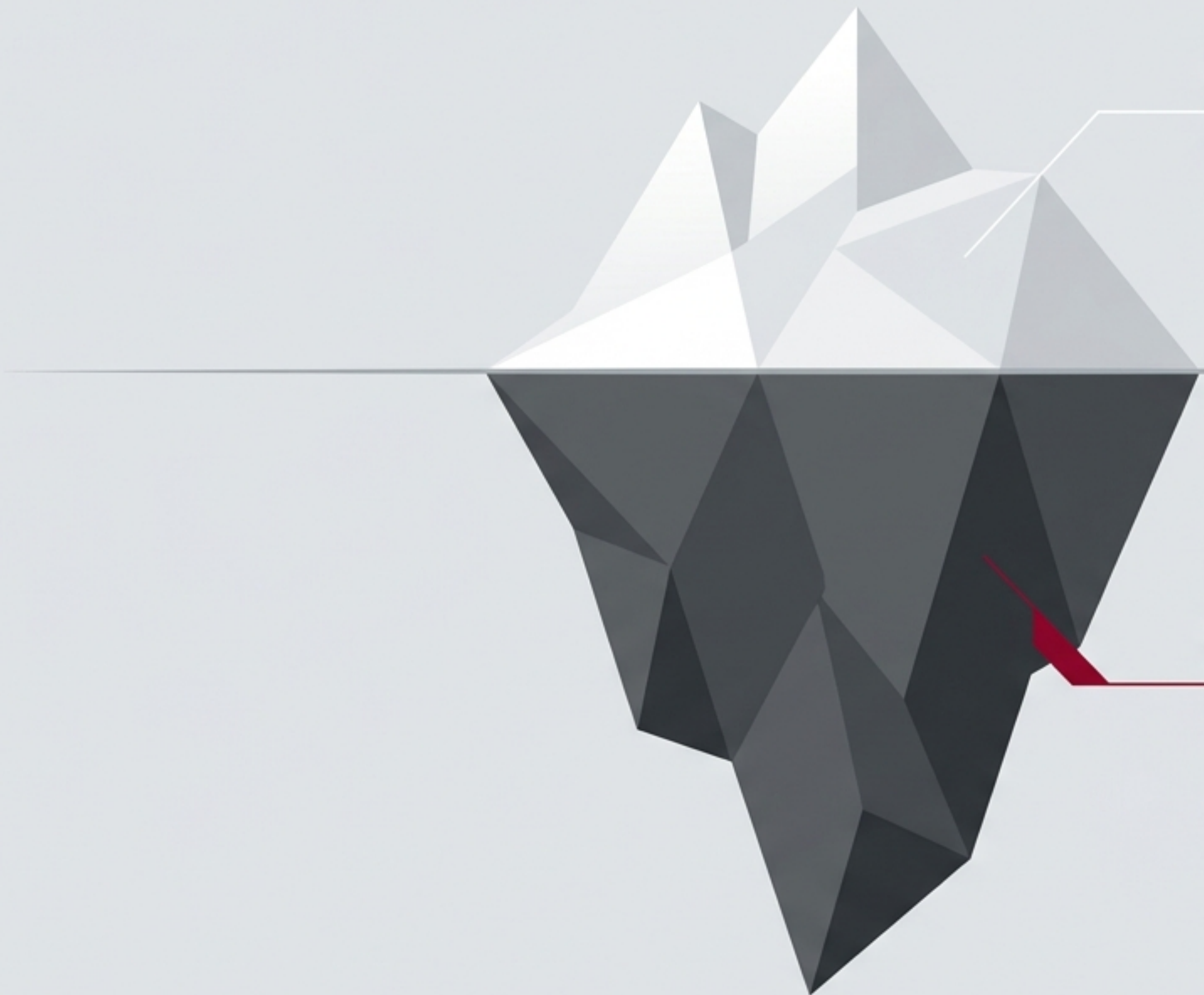


その話が嫌なのか、
自分の浅さが見えるのが嫌なのか？

An iceberg diagram with a horizontal line representing the water surface. The visible tip of the iceberg is white and jagged, while the submerged part is dark gray and much larger. A white line points from the text '表面的な称賛' to the tip, and a red line points from the text '構造的な現実' to the submerged part.

表面的な称賛

「ぎりぎりに決まった!」
「ノータッチエース、すごい!」

心地よい言葉は、自分の方向性が正しいと錯覚させる。

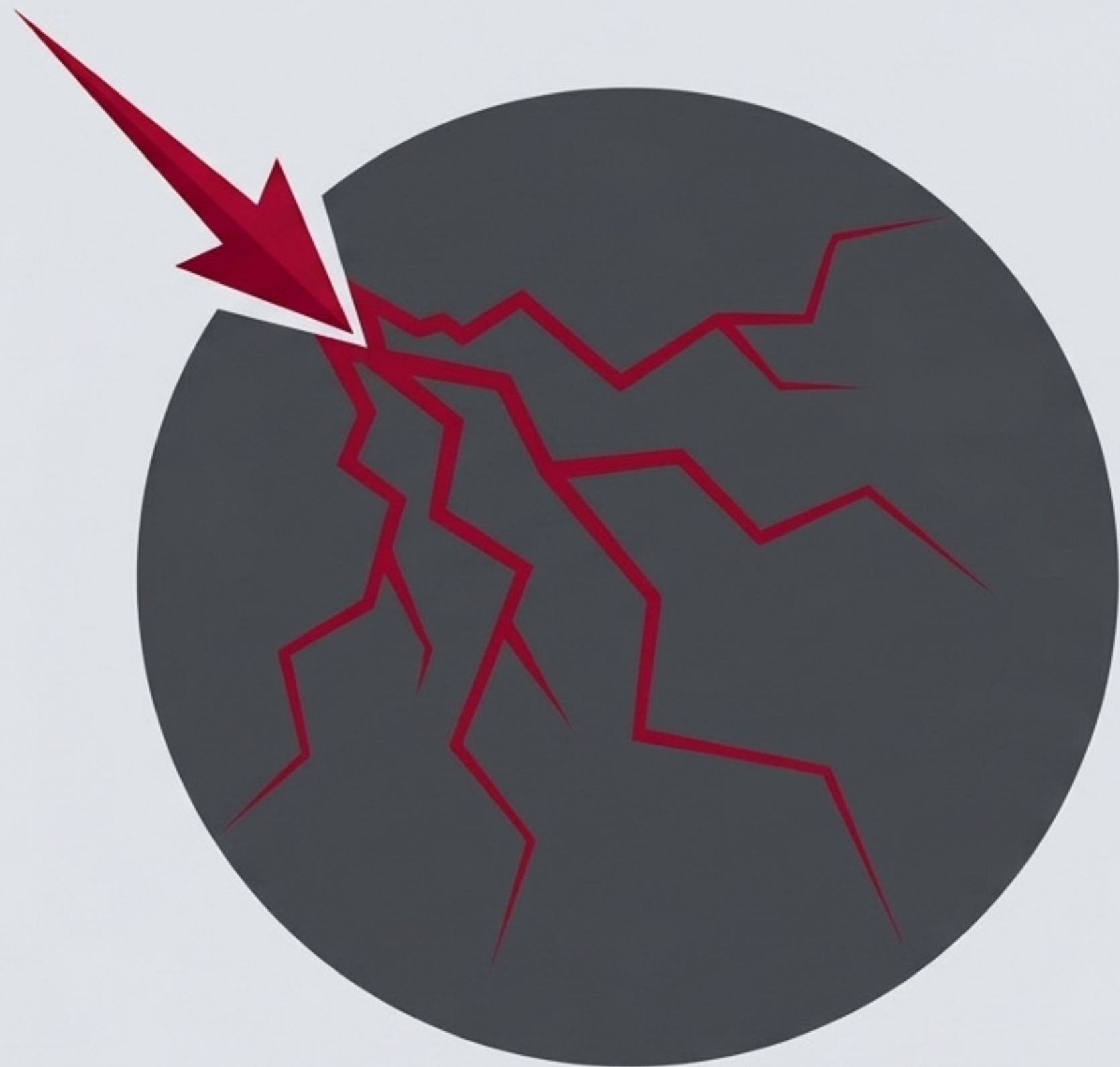
構造的な現実

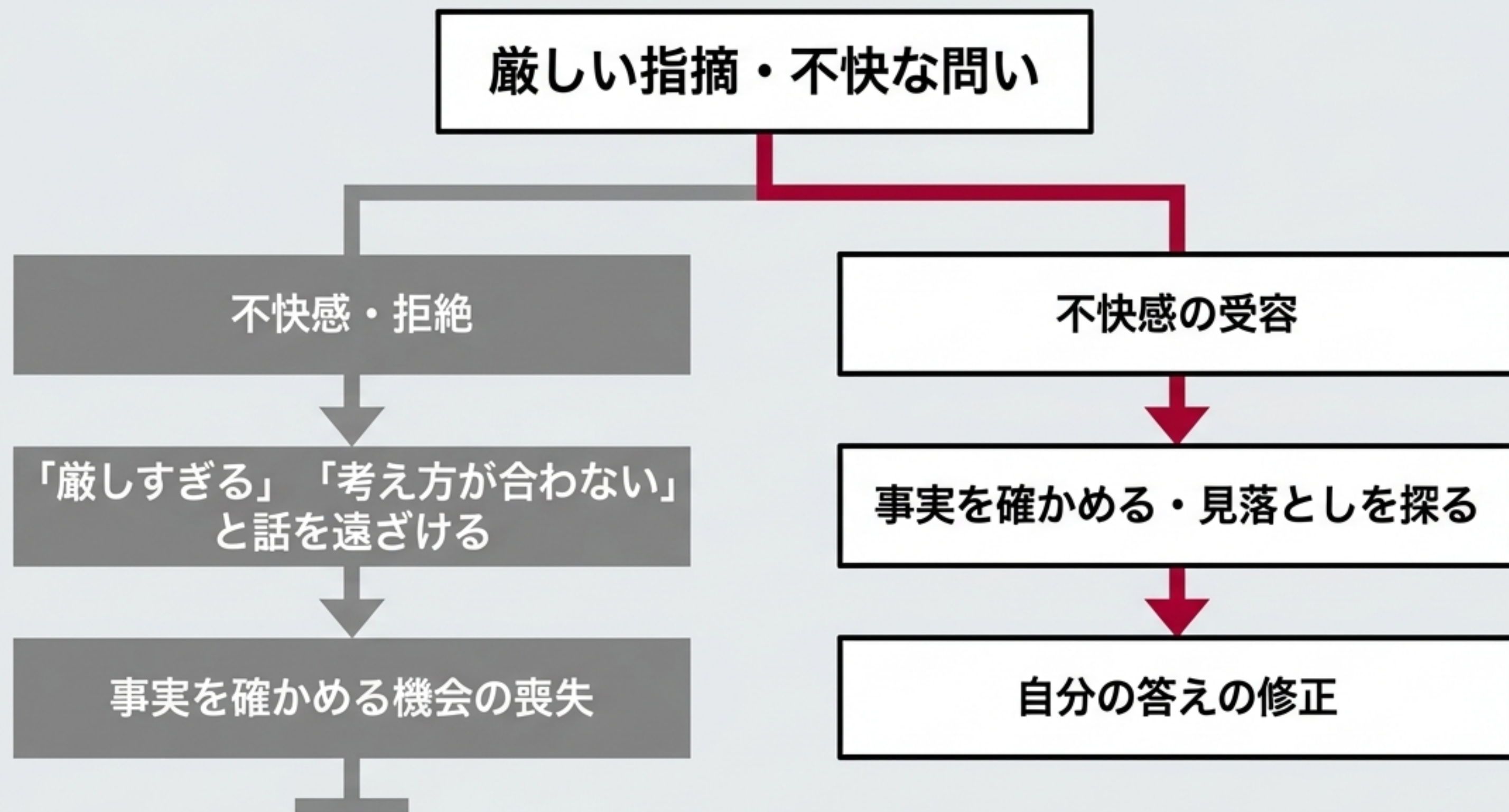
- そのショットに再現性はあるのか?
- 決まらなかった時、パートナーへの負担は?

見ていなかったものが見えてしまう瞬間

鋭い問いかけは、急激な不快感を伴う。
自慢していたプレーの「浅さ」に
気づいてしまうからだ。

そこで私たちは、無意識に
二つの道のどちらかを選ぶ。





話がおかしいから拒むのか。
信じてきた自分を否定したくないから拒むのか。

歪められる言葉の真意

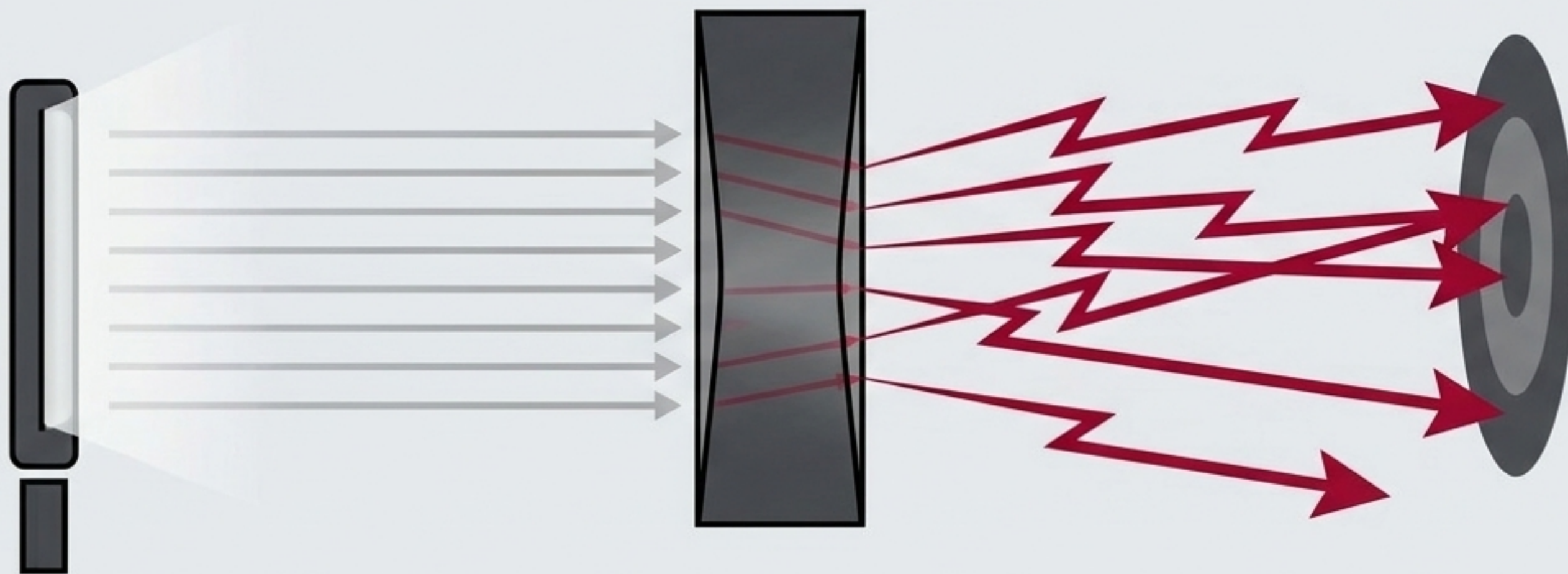
浅い話でも、同調し合えば自分の基準になる。

その基準を疑う機会を失うと、防衛本能が働き、言葉の受け取り方が歪んでいく。

理解を深めるための
言葉（指摘）

エゴの障壁：自分の浅さを
認めたくない心理

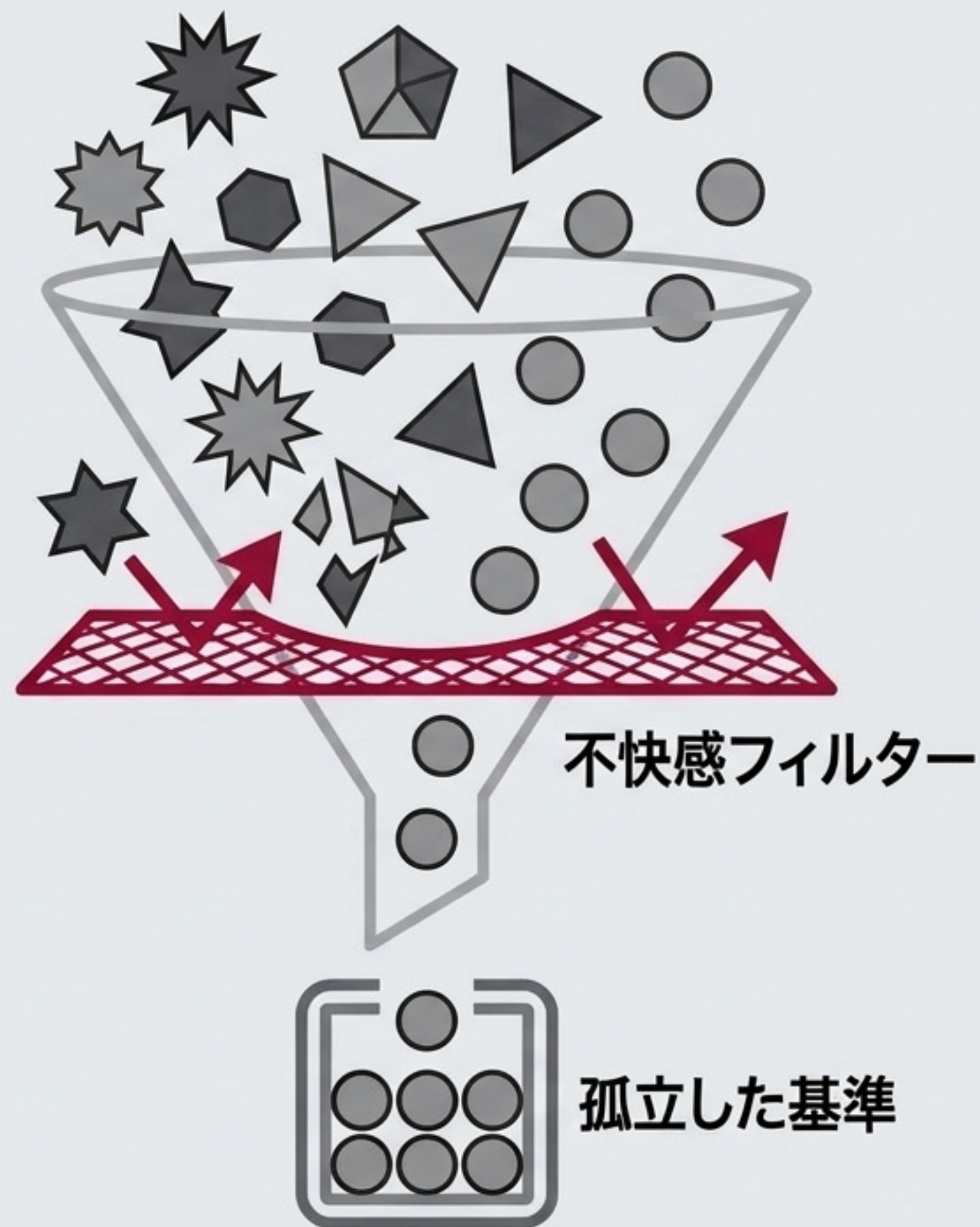
「自分への攻撃」に
聞こえ始める



不快感だけで、 聞く価値を決めていないか？

その感情だけでフィルターをかけていると、
自分の盲点を教えてくれる人から順に、
遠ざけてしまう。

残るのは、何も問い直さずに
心地よい言葉だけをくれる同調者だけだ。



2つのフィードバックと、その行き着く先

比較軸	心地よい称賛	不快な問い（指摘）
特徴	「ぎりぎりに決まった！」	「再現性はあるのか？」
内面の反応	正しい道にいると安心する	自分の浅さに気づき不快になる
行動	同調し合い基準を疑わなくなる	事実を確かめ、答えを修正する
守るもの	過去の自分（愛着・体裁）	未来の自分（成長・財産）
最終的な結果	盲点を教えてくれる人を 遠ざけ弱くなる	思考が深まり本当の財産を得る

過去の自分を守るために、
未来の自分を弱いままにするな。

防衛本能の正体：なぜ なぜ「浅い」と認められない のか？

(ある生徒の気づき)

私たちが指摘を簡単には受け入れられないの
には、理由がある。

積み重ねてきた努力には「愛着」があり、
信じてきた教えには「恩義」があるからだ。

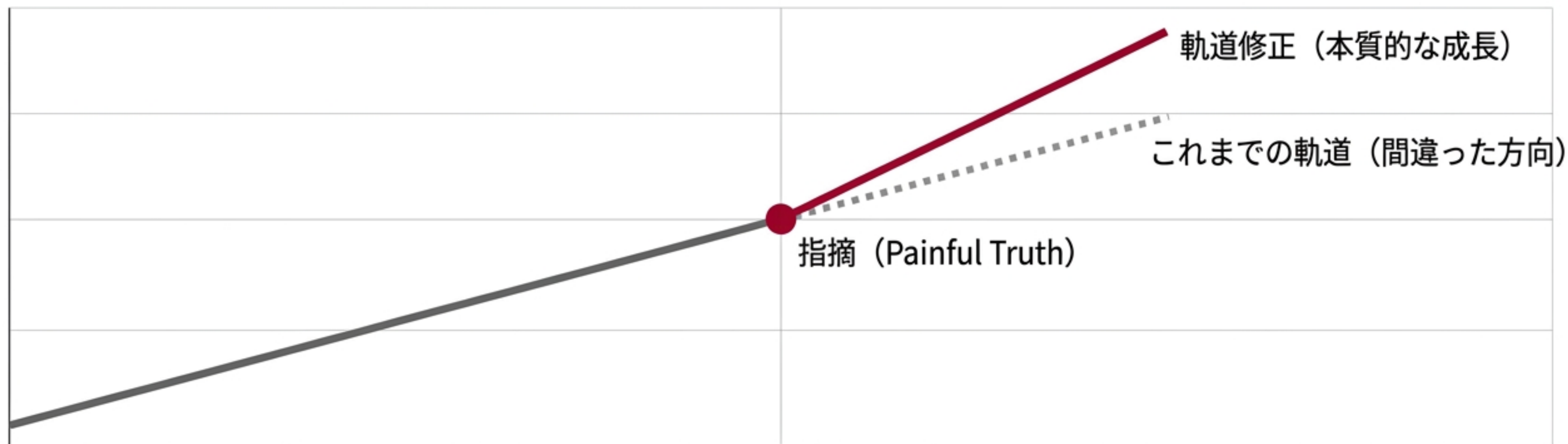
「今までの自分は浅かった」と認めることは、
それらを一度手放すような、身を切る痛みを
伴う。



間違った方向への努力の複利

指摘を遠ざけたらどうなるのか？単に成長が止まるのではない。

これまでの努力を守ったつもりで、これからの努力まで「同じ方向」に費やしてしまうのだ。
一度出した答えにしがみつき、体裁を守ろうとする限り、思考は深まらない。



体裁を守るな、中身を確認しろ

必要なのは、「私は正しく答えた」という体裁を守ることではない。
指摘された中身を確認、自分の答えを修正することだ。

「信じたくない」と思った、その先で踏みとどまる。
何が違うのか。何を見落としていたのか。
痛くても、そこを見るのだ。

**昨日まで信じていたことを、
今日、自分の手で問い直す。**

**その勇気こそ、明日の自分に渡せる
本当の財産だ。**
